

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790100087		
法人名	医療法人陽心会		
事業所名	グループホーム大道が丘		
所在地	那覇市大道94-3		
自己評価作成日	12月1日	評価結果市町村受理日	令和7年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4790100087-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4790100087-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階		
訪問調査日	令和6年 1月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者本人のもっている力を活かしてできるだけ自分でできることはご自分で行っていただくよう努める。  
また共同生活の中、自分らしく自由にそして快適に過ごしていただく。  
グループホーム大道が丘職員はそのことに努力を惜みず支援していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、市街地の幹線道路裏にあり交通の便が良い場所に立地している。近隣には理容室等の商業施設もあり、職員は朝近隣の清掃や挨拶などを行い地域の方との関係性を維持している。運営母体である医療法人の病院等が近隣にあり、急変時等には迅速な連携を行っている。「尊厳」を基本とした理念を制定し、その徹底のための10項目の方針を定め支援の礎としている。ハラスメント防止委員会の設置等、働きやすい環境が整備されている。又、職員の資格取得に向けて、受講料やシフト調整等の支援が充実している。前年度の外部評価での指摘事項について迅速に対応している。又、自己評価におけるアウトカム項目について、外出支援・馴染みの関係・運営推進会議の3項目について改善が確認できた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり、深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員と管理者は毎日理念を唱和してその理念に基づいて支援しています。	事業所には、地域密着型の意義を踏まえた理念と10項目の具体的方針が策定されている。入居者に対する態度や日常のケアの戒めとして、毎日のミーティングで唱和して共有している。キッチンや廊下には、入居者や家族・来訪者等にも確認できるように理念を掲示している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ケアマネージャーは毎日事業所の周りを清掃し挨拶しています。	近隣の店や住民の方との交流があり、庭に成ったバナナ等の差し入れや職員による地域の清掃等を通して、地域の方々と声を掛け合い交流を行っている。頃中以降地域交流室を閉鎖しているが、以前使用していたサークルなどからの要望もあり、開放に向けて準備を進めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ感染対策の経験を活かし地域の皆様に注意喚起など行うことができた。 コロナ感染対策等により積極的ではなかったため今後は地域の方々との交流を深めていきたい	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染対策により行えなかったことも今年はコロナ以前とまではいかないが行なうことができた。	運営推進会議について偶数月の第2金曜日に設定し実施している。会議では、利用状況・活動状況・ヒヤリハット、事故報告等が確認できた。参加委員からの意見などを聴取して活動に活かしている。感染症予防の観点から、開催場所や利用者等の参加については制限があるため、今年度の会議に利用者・地域代表者の参加は確認できなかった。	地域交流室の開放について準備を進め、利用者・利用者家族・地域代表者の参加可能な環境整備に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議などで那覇市職員、地域包括支援センター、知見者の方々から意見を頂戴することができました。	市の担当者は、運営推進会議に参加して情報交換を行っている。地域包括支援センターの担当者も委員を委嘱し、可能な限り参加している。参加できない場合は、資料を届けて報告を行っている。又、生活保護受給者については、担当ケースワーカーの定期的な訪問時に連携を図っている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をすることの無い支援を原則としている。身体拘束委員会を適宜行いどうすれば拘束を行わない支援ができるか職員で考え共有している。	身体拘束等の適正化については、法人の指針を基に策定されている。身体拘束等の適正化のための対策検討委員会は、3か月に1回開催されている。2月と5月に身体拘束についての勉強会を開催し、職員間で共有した。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を適宜行っている。それが虐待にあたるのかなど職員で話し合い共有している。	虐待防止については、今年度の4月に国のガイドラインに基づいた指針に改正し、6月に勉強会を開催し、高齢者虐待防止法の学びを深めるとともに、指針を含めた虐待防止の体制整備について共有した。委員会については、管理者を委員長として、法人内の小規模多機能と合同で実施している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は資料等によって学習し利用者への支援に活かしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時ケアマネと管理者は時間をかけて丁寧に説明し納得していただいている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ感染対策により制限はある適宜電話連絡など行い元気であることなど伝えていきます。	感染症対策についての法人方針に基づいて、事業所内の立ち入り制限を設けているが、家族の訪問・病院受診時などの外出付き添い時には、エレベーターホール等に対応し、情報交換を行っている。面会制限時には、SNSを活用する等、利用者・家族等の要望に応えている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	人事会議 業務会議など行っている 管理者は常に職員とは話し合える機会を設けている	業務会議を毎月開催し、職員の意見や要望を確認する機会としている。管理者は、職員と個別に面談を実施し、個々の状況等を把握している。シフト作成や利用者の担当、行事の運営等、職員の意見・要望を採用して実施している。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員は常に自発的に話しあい働きやすく丁寧な支援を提供できるよう努力できている。	運営母体の医療法人において、毎年度健康診断を実施している。夜勤者については、1年に2回の実施が確認できた。ハラスメント防止については、指針を策定し、委員会を法人内に設置している。担当相談員が複数名配置されており、職員は、電話や直接相談できる体制が整備されている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護福祉士取得に対して積極的に支援することが出ている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所管理者や職員と会議や委員会を行い支援に役立っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員は新規利用者に対し安心して早くなじめるよう傾聴を重んじ支援に役立っている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望をしっかりと聞き理解して支援にしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約時からしっかりとご家族と話し合い必要なサービスを提供できている。車イスから手引き歩行を提案し実践することができている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が食事や片付けお掃除などお手伝いいただけるよう環境を整備している。 手伝っていただいた場合お礼を言い気持ちよく次につながるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には適宜連絡を行い状況を把握していただき安心して過ごされていることを報告している。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	病院や美容室など馴染みの関係が途切れないようできるだけ変えることなく持続できるよう支援している。	携帯電話を所持して入居している利用者については、家族や知人と電話をかけあうことを支援し、関係性の維持に努めている。家族の付き添いで、3か月に1回程度の頻度で美容室に外出している利用者もいる。できるだけ現状を維持できるような支援を行っている。入居前の知人や隣人等からの差し入れなどもある。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の自由に過ごせるように努めている居室にておしゃべりしたりお一人で過ごされたり各々が自分らしく過ごされている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても次の施設等状況を把握しご家族の相談に応じ適切な支援に努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室にご家族の写真を飾ったりとお話ししやすい環境にあり利用者各々の思い出話を傾聴する時間を設けている	ソファとテーブルが配置されている居室があり、職員と利用者が個別に対話する時間を設定している。利用者の子供時代の遊びや仕事等の昔話を傾聴して、現在の思いや意向の把握を行っている。コミュニケーションの困難な利用者については、家族等から聴取している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの環境を把握できるよう努めできるだけ持続できるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は日勤、夜勤共に情報共有し利用者の現在の状態を把握し適切な支援に努めています。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	管理者、ケアマネ、職員は利用者の事を共有しケアプランを見直し適切な支援ができるよう心がけています。	利用者2名を職員が担当する担当制を導入している。ケアマネージャーは、担当者からの情報と利用者・家族からの意向・要望を確認して、ケアプランを作成している。毎月担当者会議を開催して、支援経過記録を確認しており、モニタリングについては3か月毎に実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録を職員全体で把握し共有しています。必要であれば会議で取り上げ支援に活かしています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者個々の事情があること理解し多種多様なサービスを提供することを心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	これまでの関係が断たれることのないように本人の交友など続けていけるよう支援している。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでの関係を大事に続けていけるように支援している。特にかかりつけ医は続けていくことが大事なことだと理念している。	入所前のかかりつけ医への継続を勧めているが、現在協力医の訪問診療を5人が受診しており、4人は、家族対応でかかりつけ医へ通院している。全員が週1回の訪問看護師を利用し、インフルエンザワクチン接種など迅速な対応が行われている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	インフルエンザワクチンなど看護職によって適切に行うことができた。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先と常に早期に退院できるよう連絡を取っている。またサービス変更に対しても柔軟に対応できるよう努めている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にしっかりと説明しご理解いただいている。	医療連携が確立されている当事業所は、入所の際に「看取り及び重度化に関する方針」を本人、家族へ丁寧に説明し理解を得ている。重度化や終末期を迎えるにあたっては、事業所での可能な支援を行い、家族の希望を伺いながら、系列の医療機関や他施設を紹介している。	
34	(15)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年の研修にて学び急変に備えることができている。	7月に利用者2名、系列医療機関受診でコロナ陽性が判明、職員、利用者7名が感染する状況となったが、隔離対応を行い12日後、解除することができた。ヒヤリハット報告書や申し送り、職員間のグループラインで、その都度対策を検討している。年間研修計画の中で、心肺蘇生などの勉強会を取り入れ、急変時に備えられるよう実践力を身に付けている。	
35	(16)	○災害や感染対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。又、感染症の予防やまん延防止の為に委員会の開催や指針を整備し、研修及び訓練を定期的実施している。	年2回の防災訓練にて避難方法を身に付けることができている。また研修や会議にて復習し備えることができている。	BCP計画書は策定され、自然災害、感染症対策と整備されているが、ハザードマップや備蓄リストなどが未整備である。感染症に関わる備蓄品が多く今後、見直しを予定している。防災訓練は年に2回、防火管理者を中心に複合施設全体での総合訓練が日中、夜間と行われ、訓練後の反省点も話し合っている。9月に、那覇市と消防署の立入検査の際も大きな指摘はなかった。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特に居室にて過ごされる場合職員はもちろん他利用者にも邪魔されることの無いよう配慮している。	利用者それぞれの状況に合わせて、居室ドアにのれんをかけてプライバシーを保ちつつ、安全に配慮している。個人情報保護方針は入口に掲示され、権利擁護についての勉強会も行われている。管理者は、利用者をお客様、人生の先輩と位置づけ、親しくなっても馴れ馴れしい呼び方をしないよう職員へ指導し、注意喚起の張り紙を見えるところへ掲示してある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の衣類などこちらで一方向的に決めるのではなく常に選択できるように選んでもらっている。また食事などできるだけ好みのものを提供できるよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先や集団支援ではなくその利用者個々の支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類やお化粧、ヘアカットなど好みに合わせて行うことができるよう支援している。		
40	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のお手伝いや味見などして頂き行い一人一人食事を楽しんでいただけるよう調理から片付けまで行うことができている。	3食とも事業所で手作りし、ムース食やとろみをつけるなど職員がひとり一人の食事の形態、食べ方を熟知し、工夫して調理している。食事作りの得意な職員と苦手な職員同士で業務を入替え、円滑に行い、職員も同じメニューを食している。イベント食やおやつレクなども設けているが、時々席替えを行い、楽しい時間を作っている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ひとり一人の食事の形態、食べ方を周知し安全に楽しんでもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科医からアドバイスを受け毎食後ひとり一人の口腔ケア支援を行っています		
43	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけトイレにて排泄が行えるよう心掛けている。ひとり一人の習慣を職員で周知し支援できている。	排泄チェック表を細かく記入し、自立支援に役立っている。日中は、104歳の方や車イスの方も含めて全員のトイレでの排泄を支援している。リハビリパンツから布パンツへ移行された利用者の例もあり、退院後に廃用症候群のような症状の利用者にも、立ち上がり動作を支援して、できるだけトイレでの排泄を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないよう食事を工夫している。またできるだけ薬に頼らないよう運動やマッサージ、腹巻など活用しています。		
45	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の日程はほぼ決まっているが本人の希望があれば変更し支援を行っている。	入浴支援は、週に2~3回行い、シャンプー、ボディソープなど利用者の好みの物を家族が届けている。入浴拒否される場合は、時間や担当を変え、声掛けに工夫し、無理強いせず、利用者本位の支援を行っている。浴室、脱衣所は換気が十分なされ冬場はヒートショック対策でヒーターを足元に準備している。収納が少なく足元が雑然として利用者の安全確保に不安がある。	収納スペースが少なく、洗剤などが利用者の手の届くところにあり、危険防止の為、早急に職員で知恵を出し合い、整理整頓が出来るよう期待したい。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ひとり一人の入眠時間、起床時間など考慮し柔軟性をもって支援している。		
47	(21)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については研修や会議など行い常に高い意識をもって支援を行っている。	昨年の2月に薬セットミスของヒヤリハットがあったが、その後、管理者は服薬事故を防ぐため、慌てずに確実に声を出して薬袋に記入された名前を読み上げ与薬するよう注意を促している。服薬マニュアルが整備され、服薬の手順書も職員の見えるところへ掲示され、事業所全体で安全な服薬支援について取り組んでいる。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日のレクや体操など工夫を凝らし飽きないように楽しんでいただいています。イベントではケーキ作りやたこ焼きパーティなどまた誕生日会など喜んでいただいている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブで海や公園など行って大型船や桜など楽しんでもらうことができました。	日常的に3階のベランダで日光浴をしながら、プランターで育てているトマトへ水やりをしたり、4階の屋上での外気浴と歩行訓練などを取り入れて気分転換を図っている。家族との外出や外泊には特に制限を設けず、体調を確認しながら親族の結婚式や法事など関係性が途切れないよう支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭に関心のある利用者がいれば支援している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している方は自由に使い固定電話にて連絡を取りたいことがあれば支援しています。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活環境の整備は毎日行って適切な状態を保つことができている。季節感を散り入れその時期を感じてもらえるよう配慮している。	前回の外部評価の目標として、共用部分への利用者作品の掲示を掲げ、今年度、職員は利用者と一緒に作成する季節の設えに注力し、お正月らしい掲示物や和装の帯を使ったディスプレイで、来所者も楽しめるよう配置し、彩を添えている。リビング兼食堂で過ごすことが多く、椅子に座る際のむくみ予防に工夫して、簡易的な足置きを準備している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者は自由に各居室にておしゃべりを楽しんでいます。一人になりたい方はできるだけ妨げることが無いよう職員は支援しています。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は本人の思い出のや嗜好品など自由に設えています。	エアコン、防災カーテン、洋筆筒、電動ベット、ナースコールが設置され、入居の際には家族へ依頼して、加湿器を持参してもらったり、好みのものを自由に持ち込んでもらっている。ベランダ掃き出しを開けた換気と職員による週3回の清掃で、感染対策と清潔な居室の保全に努めているが、オムツやポータブルトイレなどが見える所にあり、片付けが不足している。	それぞれの利用者担当の職員が配置されており、オムツやポータブルトイレなど利用者の羞恥心に配慮して小まめに片付けるよう望みます。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員は本人の持っている力を大事にし活用しています。各利用者の事は職員全員で周知し安全に暮らせるよう支援しています。		